

自動運転バス実証事業の進捗状況について

総務省「地域社会DX推進パッケージ事業（自動運転レベル4検証タイプ）」

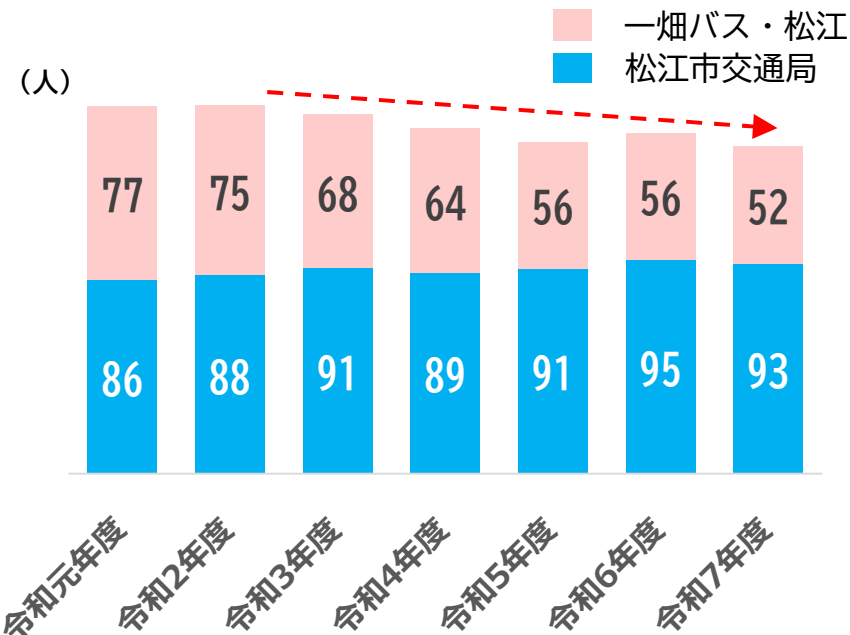


まちづくり部 交通政策課

松江市の公共交通を取り巻く状況

● 路線バスの運転士数

運転士数は減少傾向が続いており、「2024年問題」も影響して**運転士の確保が急務**となっている



※各年度末、令和7年度は4月1日時点

運転士不足による**路線の廃止・減便**が相次ぐ

令和6年4月1日～

減便 10路線

廃止 —

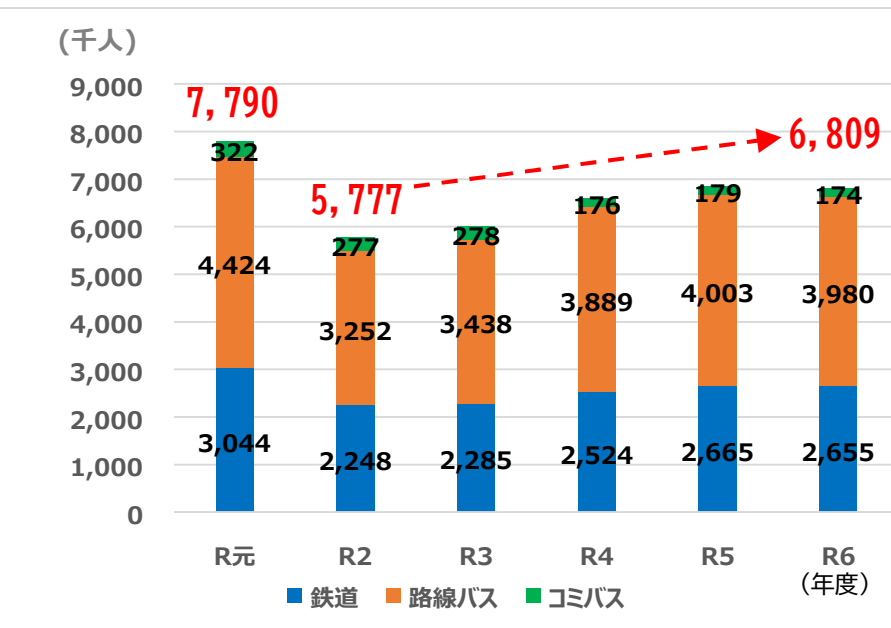
令和6年10月1日～

減便 5路線

廃止 3路線

● 鉄道・バス利用者数

令和2年度はコロナの影響で**急減**した後、若干回復したものの、令和元年度（コロナ禍前）の水準には**戻っていない**



令和6年5月「公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクトチーム」設置

- 交通事業者、利用者・地域代表、担い手（運転士）、行政の各分野の代表で構成
- 官民連携で公共交通のあり方を検討



自動運転バス実証実験

令和6年10月4日 松江市とソフトバンクが「事業連携協定」締結（人流・物流）

令和7年4月8日 総務省「地域社会DX推進パッケージ事業（自動運転レベル4検証タイプ）」採択

令和7年4月22日 実証団体（コンソーシアム）活動開始

ソフトバンク（代表機関）／先進モビリティ／
沖電気工業／日本信号／松江市交通局／一畑バス／
松江市（協力機関）

実証事業の
走行ルート
4.5km／片道



自動運転バス導入のねらい

1

公共交通の維持

- ・自動運転化でドライバー不足に対応

2

おでかけ需要の創出

- ・Bリーグ観戦
- ・今後、国宝松江城への結節による観光客の利便性向上も

3

まちの魅力向上

- ・DX・GXを用いて積極的にチャレンジする先端都市としてまちの魅力を向上へ

走行区分	期間
自動運転バス調整走行	9/17～10/8
センサや信号との連携試験	10/9～10/24
実証実験データ取得走行	10/28～11/21
関係者試乗会・一般試乗会	11/27～12/14
降雪時の検証	12月中

令和7年度における自動運転バスの取組み

令和7年度の「自動運転バス実証事業」の目的

Point
1

課題洗い出し

レベル4をめざすために自動運転バスが本市の公道を走行するにあたっての課題の抽出を行う



出典) 国土地理院(<https://www.gsi.go.jp/>)より作成
© SoftBank Corp. All Rights Reserved.

Point
2

インフラ協調の必要性検証

安全に走行するためにインフラや信号連携等の必要性の検証を行う



出典) 国土交通省
<https://www.mlit.go.jp/jidosha/content/001751816.pdf>

Point
3

社会受容性向上

市民の方々に自動運転バスへの理解や関心を高め、社会受容性の向上を図る



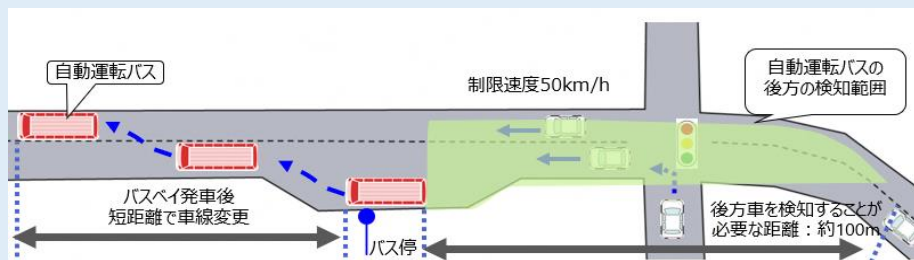
令和8年度以降の自動運転バス実証事業に活用

●見通しが困難な道路で、路側センサーや信号情報と連携、安全に走行するための有効性を検証



バス停からの発車支援

- バス停後方の信号灯色情報を自動運転バスへ連携、バス停からのスムーズな発車を支援
- 自動運転バスから死角となる、後方からの左折車情報を自動運転車両に連携・制御



交差点の右折支援

- 地形により自動運転バスの死角となる周辺環境情報(対向車など)を自動運転車両に連携・制御



自動運転バス実証実験 社会受容性向上のための取組み

■ イベント参加

民間団体主催のイベント『はたらくくるま2025』（11/3）
自動運転バス車両展示 市内外から来場者数約10,000人



家族連れ多数来場

■ 市公式Youtube、交通局バス車両、各種イベント会場にて、自動運転バスのPR動画を配信



自動運転バス実証実験PR動画
(B_Ver)

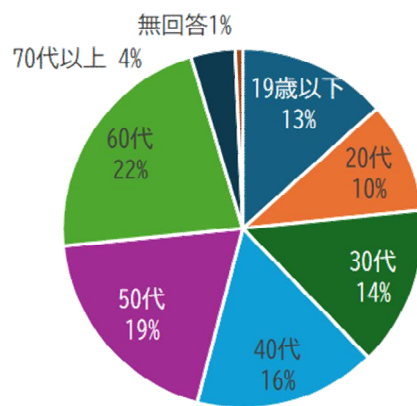


自動運転バス実証実験PR動画
(A_Ver)

松江市公式Youtubeより

■ 試乗会の開催

ルート：宍道湖遊覧船乗場（発着）⇔テクノアークしまね
関係者試乗会 5日間 160名
一般試乗会 7日間 224名 ※8席×4便／日



(n=201)

一般試乗会参加者の年齢割合

【乗車時の感想等自由意見】※一般試乗会アンケートより

	感想・ご意見等
良かったこと	<ul style="list-style-type: none"> 違和感はなかった（発信時・速度等）※多数 安心して乗れた 自動運転バスによる増便に期待したい 運転士不足や公共交通の維持につながるとよい
課題に感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキが急に感じる 車イス対応や無人時のトラブル対応はどうするのか 悪天候、工事区間、路上駐車への対応 コストが運賃に転嫁するのか不安 課題は多々あるが、まずは導入してクリアしていく方がよい。市民の理解も重要。
公共交通全般	<ul style="list-style-type: none"> 交通マナーを守ることが必須 路線バスの最終便を遅くしてほしい 少子高齢化でドライバー不足は加速するため、地域の公共交通を維持するには不可欠な技術

【チャレンジ】自動運転バスの導入における将来構想

- 令和9年度に1路線でレベル4認可を取得し、本格運行をめざす
- そのため、令和8年度は国宝松江城を経由するルートでの実証を行い、生活交通に加え、観光需要も含めた事業性の検証を進める
- そして、将来的には、JR松江駅と国宝松江城や交通結節点である松江しんじ湖温泉駅などをつなぎ、複数路線での自動運転化、さらには遠隔監視システム導入による省人化・コスト低減を実現したい



ロードマップ

令和7年度【実証実験】

- ・ 松江市内公道走行による課題の洗い出し
- ・ インフラ協調の必要性検証

令和8年度【L4認可に向けた準備】

- ・ 2025年度の課題対応
- ・ 駅ロータリー・回送区間等での走行検証
- ・ 事業性の検証

令和9年度【L4認可取得】

- ・ 1路線でL4認可取得

L4認可取得後【本格運行・路線拡大】

(財源)
国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業)」を活用予定
補助率・上限 4/5 (重点支援) 3億円 (一般支援) 1億円